

地域の道祖神を巡る大館歴まち散歩

1. 日 時 令和元年6月8日(土) 9:00~12:00
2. 主 催 大館市 建設部 まちづくり課
3. 案内者 大館松下村塾「歴史と歌の会」会長 松山 尚
4. ねらい 歴まち散歩をとおして当時の人々の生活や文化を知る。
5. 見学コース

長根山運動公園駐車場	~	小雪沢	~	新沢	~	松原	~
9:00 出発		9:15~9:20		9:25~9:30		9:50~10:30	
清水川	~	中羽立	~	粕田	~	花岡本郷	~
10:35~10:40		10:45~10:50		10:50~10:55		11:00~11:20	
新姥沢	~	長根山運動公園駐車場					
11:30~11:40		12:00 解散					

◎見学ガイド

○道祖神とは

民間信仰の一つである道祖神は、峠の坂口や村境、十字路、集落の出入口や中などに祀られている神様の総称で、病魔や災厄、悪霊の侵入をさえぎって境を守っています。

「ドウソジン」のほか「サエノカミ」、「サイノカミ」、「ドウロクジン」などとも呼ばれ、土俗の「神」らしく「幸の神」や「才の神」、「塞の神」、「妻の神」など様々な表記されています。

「サエ」とは、さえぎること、せきとめることで、サエの神は悪霊の侵入をさえぎって境を守る神です。

境は単に地理的なものだけでなく、この世とあの世との境をも含むもので、結界の一種と考えられています。

道祖神の多くは碑や祠ですが、自然石や木製、藁製の人形などもあります。



菅江真澄がスケッチした
小雪沢の道祖神人形

○秋田県内の「サイノカミ」の地名と地区数

県教育委員会刊「サエの神行事」参照

- ・才の神 28カ所
 - ・塞ノ神 18カ所
 - ・妻の神 10カ所
 - ・才の神沢 7カ所
 - ・財の神 6カ所
 - ・斎の神 2カ所
 - ・小才ノ神 2カ所
 - ・才ノ神岱 2カ所
 - ・祭ノ神 1カ所
 - ・佐幣の神 1カ所
- 計 77カ所

市内では、長木地区の才の神が記載されています。同集落は、江戸時代の芦田古村の支郷で、芦田子から釈迦内地区商人留に至る山道に沿って位置しています。現在、道祖神は祀られていませんが塞ノ神神社はあります。

○市内の道祖神

歴史的にも古く、多くの道祖神が多くの集落にあったと推察され、菅江真澄によって記録されているものもあり、少なくとも 200 年以上前から存在し、現在まで続いている風習と考えられています。

市内の人形道祖神は 27 集落で 64 体もあり、**県内で最多**です。

民俗学的にも大変貴重なものです。

地名	人形数				地名	人形数			
	男	女	不明	小計		男	女	不明	小計
松原	1	1		2	別所			2	2
寺ノ沢	2	0		2	小雪沢	1	1		2
清水川	1	1		2	大明神	1	1		2
中羽立	2	1		3	新沢	2	2		4
粕田	1	1		2	二ツ屋	2	2		4
長面袋	2	1		3	赤坂	1	1		2
大森	2	1		3	向館	1	1		2
神山	1	1		2	上名	1	1		2
二井山	1	1		2	館町	1	1		2
繁沢	1	1		2	川反	1	1		2
土目内	2	1		3	前田	1	1		2
新姥沢	1	1		2	神明岱	1	1		2
松峯	3	0		3	美杉	1	1		2
花岡本郷	3	0		3	小計	14	14	2	28
小計	23	11		34	合計	37	25	2	64

1. 小雪沢

大館寄りの集落の入口に「女神」、小坂寄りの出口には「男神」の人形が立っています。

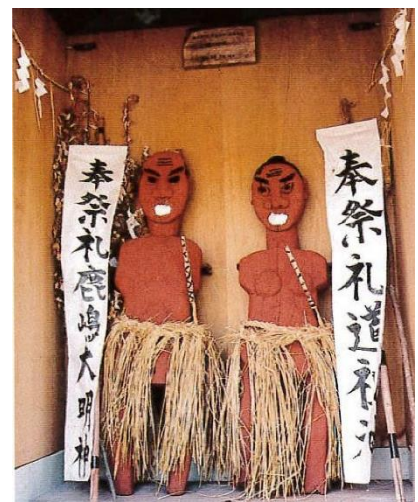
江戸時代後期の旅行家の菅江真澄が、212年前の文化4年(1807)5月27日にここを訪れ、紀行文に記し、人形様をスケッチして、赤色に塗られた人形が2体並んで立ち、衣こしみのと腰蓑きやはんを着け、脚絆こしみのを巻き、わらじを履き、剣や槍を持っています。

現在の人形様は衣類などがなく、大きく変化しています。

2. 新沢

小坂寄り(上手)に男女各1体、大館寄り(旧小坂線の踏切側、下手)に男女各1体の人形が立っています。

「ドンジン様」と呼ばれ、全身木製で両腕がなく、べにがら紅殻で赤く塗られ(赤色は元来魔除け、疫病除けの霊力を持つと考えられていた)、腰蓑を着けています。



3. 松原

山神社の入口前に男女各1体の人形が立っています。「ニオウ様」と呼ばれ、木の骨組みおがらにわら苧殻、藁、杉の葉で作られています。

ニオウ(仁王)様とは仏法護持の神で、寺門の両側に置かれる金剛力士の像をいいます。

人形の作り替えは、平成18年から2年に1回で、令和元年の今年是人形を新しくする年です。



4. 清水川

集落の上手に白い顔の女神、下手に赤い顔の男神のニンギョウ様が、両手を左右に拡げて立っています。

木の骨組みで、顔は彫刻され、髪、眉、目などを黒く描き、腰に太いしめ縄を巻き、草履を履いています。



5. 中羽立

集落の上手と下手に赤い顔の男神が各1体、八幡神社側に白い顔の女神が1体あり、両手を左右に拡げて立っています。手指の先のくぼみは爪を表しているようです。石の道祖神も各々1つ置かれている。

頭部は木製で、髪、眉、目などを黒く描き、腰に太いしめ縄を巻き、草履を履いています。平成元年に川崎市へ1カ月貸し出しをしています。



6. 粕田

集落の上手に白い顔の女神、下手に赤い顔の男神のニンギョウ様が、両手を左右に拡げて立っています。頭部と四肢は木の骨組みで、胸はござで覆い、腰に太いしめ縄を巻き、御幣と「塞神三柱神社」の紙旗を肩に差しています。



7. 花岡本郷

本郷神明社の境内に高さ5mの「鍾馗様」が立っています。当市で一番大きい道祖神です。

木製で、右手に刀を振り上げた姿勢の人形です。

鍾馗は、中国の伝説上の魔除けの神で、日本では端午の節句に飾ります。



8. 新姥沢

岐美二柱神社の境内に、赤い顔の男神と女神2体が立っています。「秋ニンギョ様」と呼ばれ、両手を開いて上げています。

頭、耳、頬などは黒く描かれ、男神と女神の区別は容易にできません。

岐（キ）美（ミ）は古事記に出てくる日本の国を作った神で、伊邪那岐、伊邪那美に由来し、名づけられています。

